

### ● 円高および日本の基幹システム切り替えなどが影響し、対前年減収減益

対前年同期比 売上高：94.4%、営業利益：63.5%、四半期利益：41.3%

- システム切り替えに伴う受注制限 【影響額：売上高 △33億円、粗利益△24億円】
- システム稼働開始に伴う償却費増加 【影響額：販管費(償却費) +6億円】  
【システム切り替え影響額：売上高 △33億円、営業利益 △30億円】期初業績予想に織り込み済
- 海外の棚卸資産見直しの影響 【影響額：営業利益 △17 億円】期初業績予想に未反映

### ● 日本、中国を除き、現地通貨ベースでは対前年増収

- 中国は政府が推進する医療費抑制政策による市場環境悪化の影響を受け、売上は現地通貨ベースで対前年△5%

5

**浅野**：シスメックスの浅野でございます。いつもご支援ありがとうございます。

先ほど 2026 年 3 月期第 1 四半期の決算を発表いたしました。対前年減収、大幅減益となっております。これは事業が不調だというわけではなく、第 1 四半期に特殊要因が生じたためでございます。その特殊要因について、そして事業状況の概要について私からご説明し、詳細は後ほど飯塚からご説明します。

まず一つ目の特殊要因は、社内基幹システムの切り替えによる影響です。

長年投資を続けてまいりましたデジタル化が昨年度末に完了し、4 月よりグローバルに本稼働を迎えました。その対象が生産・物流・受発注を含む SCM と広範囲になっておりましたので、製品供給に対するトラブルや欠品等が生じ、病院業務の停滞を引き起こすようなことはあってはならないため、その切り替えを慎重に行うことといたしました。

4 月の 1 カ月間をシステム移行期間とし、受注を制限し、慎重にシステムを引き切り替えていくとともに、お客様には昨年度末に必要な応じ多めに在庫を積んでいただきました。その結果、日本地域の 4 月度の売上が大きく減少しました。

また、システムの稼働に伴い、第1四半期より償却費が新たに発生しました。償却費は年間を通じて発生していきますが、システム構築のための経費が減少していきますので、年間を通じて償却費プラス経費といった額は一定範囲に収められる予定です。

これらシステム切り替えへの第1四半期の影響は、売上にして33億円減、営業利益は30億円減となりますが、これらについては当初の計画に組み込んでおりました。

二つ目の特殊要因は、海外の棚卸資産の評価見直しです。

海外関係会社における連結上の棚卸資産の評価について見直しを行い、17億円の売上原価調整額を今期に計上いたしました。これは計画策定時には想定していなかったもので、計画に入っておりませんでした。

これらの二つの特殊要因により、第1四半期は売上にして33億円、営業利益にして48億円のマイナス影響を受けました。しかし、これは第1四半期のみが発生する特殊要因でございます。

一方、事業面を見ると、日本および中国を除き、現地通貨ベースで増収でした。日本も先ほど申し上げた基幹システムの切り替えの影響で、これがなければ増収であったと推定しています。

中国につきましては、現地通貨ベースで若干の増収を計画として見込んでおりましたが、中国政府の医療費抑制政策の強化などによる厳しい市場環境悪化の中で、現地通貨ベースで5%のマイナスとなりました。これは競合に負けたというわけではなく、市場シェア自体は維持しております。全体としても円高であり少し弱めではありましたが、事業が悪化したということはありません。

以上を要約いたしますと、基幹システム切り替えにより、日本地域において売上33億円、営業利益30億円のマイナスインパクトがありました。しかし、これは当初計画に盛り込んでおり、この減少分は上期で、他地域での増収に加え、メディカルロボット事業あるいは製品ポートフォリオの追加で埋め合わせる計画としております。

また、連結上の棚卸資産の評価見直しに伴う売上原価調整額17億円が発生しました。これは想定外のものでした。

第1四半期には、この二つの特殊要因が発生しました。

## 2026年3月期 業績予想

- 上期：以下 影響を織り込み計画を修正
  - － 日本のシステム切り替え影響からの回復遅れ
  - － 中国の減収リスク（現地通貨ベースで前年同期比△5～10%程度の影響）
  - － 第1四半期に計上した海外の棚卸資産見直しの影響
- 通期：  
各地域での販売強化に加え、新たな成長材料を追加することで、**通期では計画達成を見込む**
  - ・ 米州：XR™シリーズ・CN™シリーズの下期業績貢献
  - ・ 中国：販売強化策・製品ポートフォリオの追加により対前年同程度を維持
  - ・ 日本：他社協業等による製品ポートフォリオの追加
  - ・ ダイアグノスティクス事業での新たな成長要素：順調に協議が進展中

6

上期の見通しですが、第1四半期に発生した棚卸資産の評価見直し、そして日本地域での基幹システム切り替えに伴う減収分を上期にリカバリーしようとしておりましたが、少し遅れているのと、それから、中国における医療費抑制政策の影響、これは現地通貨ベースで第1クォーターはマイナス5%でしたが、5ないし10%の減収リスクを盛り込みます。

以上により、上期の見通しを修正いたしました。

上期はこのようにいったん落ちこみますが、通期については目標を維持したいと思います。

この後にもご説明いたしますが、米国でのXRシリーズやCNシリーズの発売、アルツハイマー検査など、さまざまなポジティブな要素があり、日本地域、そして中国地域においても、販売体制の強化・再構築、そして製品ポートフォリオの追加を予定しております、挽回できると考えております。

また、年初にお示したIVD領域における新たな成長要素についても順調に協議が進んでおりまして、近い時期にその全貌をお知らせすることができると思っています。

皆様のご期待に応えるべく全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご支援のほどお願い申し上げます。

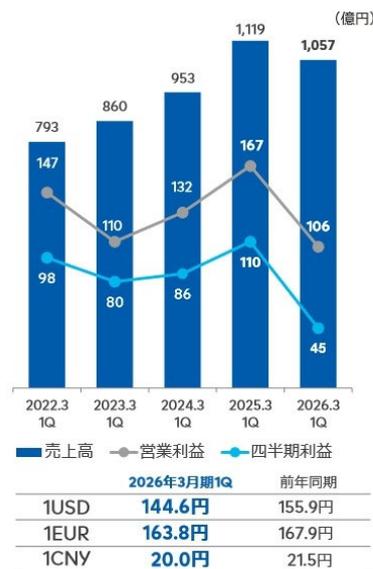
それでは、ここより飯塚に引き継ぎます。

## 決算総括（対前年）



(億円)	2026年3月期1Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	1,057.3	100%	1,119.4	100%	94.4%
売上原価	512.6	48.5%	519.0	46.4%	98.8%
販売費及び一般管理費	382.9	36.2%	360.1	32.2%	106.3%
研究開発費	64.0	6.1%	73.5	6.6%	87.1%
その他の営業損益	8.6	0.8%	0.7	0.1%	-
営業利益	106.2	10.1%	167.4	15.0%	63.5%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	45.5	4.3%	110.3	9.9%	41.3%

- **売上高**：円高および日本の基幹システム切り替えの影響により、減収
- **営業利益**：基幹システムの切り替え影響などにより、減益
  - ✓ **基幹システムの切り替え影響** 売上高 △33 億円、販管費 +6 億円、営業利益 △30 億円
  - ✓ **海外棚卸資産の評価見直し** 営業利益 △17 億円
  - ✓ **為替の影響** 売上高 △55.0 億円、販管費 △13.4 億円、営業利益 +7.1 億円
  - ✓ **前年同期為替レート適用の場合** 売上高 99.4%、販管費 110.1%、営業利益 59.2%
- **四半期利益**：△58.7%の減益 為替差損益：△15.0 億円（前年同期比△28.9 億円）



8

**飯塚**：飯塚でございます。皆様どうぞよろしくお願いたします。

では初めに、8 ページ目をご覧ください。まずは、決算総括を対前年比でご説明させていただきたいと思ひます。

売上につきましては、今しがた浅野からも説明がございましたが、対前年比では円高に加え、日本の基幹システム切り替えに伴う受注制限の影響が 33 億円、これらによる減収がございまして、約 1,057 億円、対前年同期比 94.4%となりました。

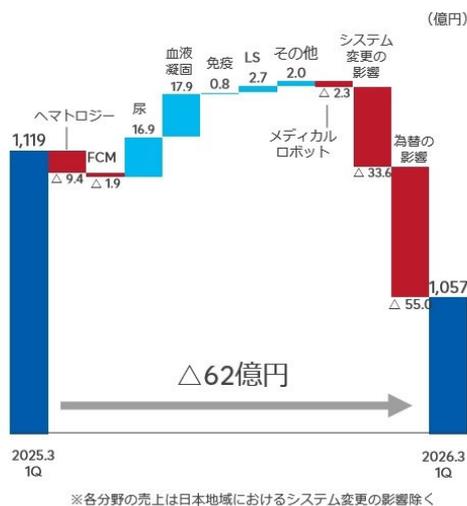
営業利益につきましては、減収に伴う粗利の減少、それから、こちら先ほど説明がございましたが、海外棚卸資産の評価見直しの影響が 17 億円、それから、さらに基幹システム稼働に伴う償却費の増加 6 億円。こういったことなどにより減益となり、106.2 億円、対前年同期比 63.5%となりました。

四半期利益は、為替差損の影響などにより 45.5 億円で減益、前年同期比 41.3%となりました。

## 売上高の増減要因（事業別・分野別）



### 事業別・分野別売上高



### 円高、システム切り替えの影響を受けるも尿・血液凝固分野が好調

(億円)	2026年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	システム切り替え・為替影響を除く
売上高	1,057.3	100.0%	94.4%	102.4%
ヘマトロジー	648.0	61.3%	91.7%	98.7%
FCM	5.9	0.6%	73.1%	76.8%
尿	97.3	9.2%	109.1%	118.9%
血液凝固	146.9	13.9%	100.7%	112.3%
免疫	40.1	3.8%	86.0%	101.7%
生化学	6.4	0.6%	73.4%	83.9%
ライフサイエンス	51.1	4.8%	97.6%	101.0%
その他	52.2	4.9%	103.9%	107.2%
ダイアグノスティクス事業	1,048.2	99.1%	94.6%	102.6%
メディカルロボット事業	9.0	0.9%	79.7%	79.7%

9

スライド9ページ目、事業別・分野別の売上増減要因をご説明させていただきます。

まず左側にごございますグラフですが、こちらは分野別の対前年売上高にしまして、先ほど来ご説明しておりますシステム変更の影響、および為替の影響を除いた、ある意味、実力値ベースを示しております。

ヘマトロジーにつきましては、グラフのとおり、9.4億円減、前年同期比では98.7%で、微減になります。なお、為替影響のみを除くと対前年比96.8%で、ほぼ前年並みとなっています。

尿につきましては16.9億円増、前年同期比では118.9%で、大きく増加しました。こちらは、為替影響のみを除いても116.3%と、2桁成長となっています。

凝固でございしますが、17.9億円増、前年同期比では112.3%と、こちらも2桁伸長となっています。為替影響のみを除くと、106%となりました。

免疫は0.8億円の微増、前年同期比では101.7%でございます。為替影響のみを除くと、90.3%となりました。

# 売上高の増減要因（地域別・品目別）

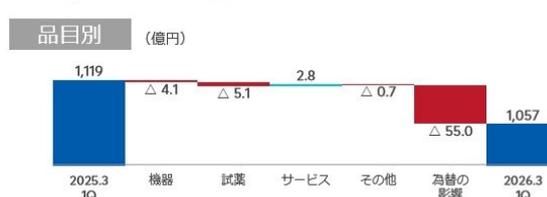
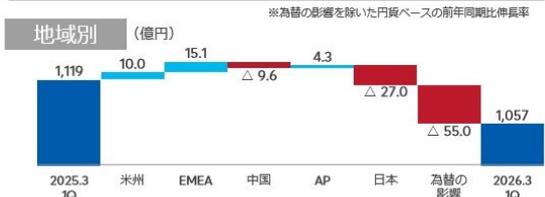


## 日本、中国を除き、現地通貨ベースでは対前年増収

(億円)	2026年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	1,057.3	100.0%	94.4%	99.4%*
米州	302.0	28.6%	95.5%	102.9%
EMEA	351.5	33.2%	101.2%	103.7%
中国	172.7	16.4%	88.5%	95.1%
AP	120.9	11.4%	98.0%	103.5%*
日本	110.1	10.4%	80.3%	-
機器	194.0	18.4%	93.2%	98.0%*
試薬	667.6	63.1%	94.3%	99.3%*
サービス	156.0	14.8%	96.3%	101.8%*
その他	39.5	3.7%	95.2%	98.2%*

### 地域別の主な増減要因 \*現地通貨ベース

米州	・ 中南米向け機器売上が前年好調の影響により減収するも、北米のヘマトロジーおよび尿分野が伸長し、 <b>増収を達成</b>
EMEA	・ 中東における地政学的影響により、トルコやサウジアラビアなどが減収となるも、主要国が好調に推移し、 <b>増収を達成</b>
中国	・ 政府主導の医療費抑制政策による厳しい環境下、販売施策の強化などにより、対前年5%減収
AP	・ 尿・血液凝固分野の試薬が伸長し、現地通貨ベースでは <b>増収</b> 。AP地域内で発生する為替影響などにより、円ベースでは <b>減収</b>
日本	・ 基幹システム切り替えに伴う受注制限の実施により、試薬が大幅に減収となり、 <b>減収</b>



10

スライド 10 ページ目、地域別の売上高増減要因でございます。

日本と中国を除き、現地通貨ベースでは対前年増収となっております。

特に米州につきましては、北米におけるヘマトロジー・尿分野が伸長し、それから EMEA、トルコなど一部で弱さが見られた地域がございますけれども、特に主要国では好調に推移しております。また、アジア・パシフィック地域では、尿・血液凝固分野が特に伸長しております。

これら米州、EMEA、アジア・パシフィック、全体で見ますと、若干スロースタートには見えますけれども、市場環境が悪化していたり、マーケットシェアを落としているということはありませんので、われわれは 2Q 以降の巻き返しを期待しておりますし、特に心配はしていません。

一方、後ほど詳しくご説明させていただきますが、中国ではやはり医療費抑制政策による影響を少し受けておりまして、対前年比約 5%減となりました。

日本では、こちら先ほどからご説明のとおり、基幹システム切り替えに伴う受注制限の影響と、それらの回復の遅れ、こういったことがございまして、対前年比約 80%となりました。

なお、システム切り替えの影響がなければ、対前年比 4%増で、増収となってました。

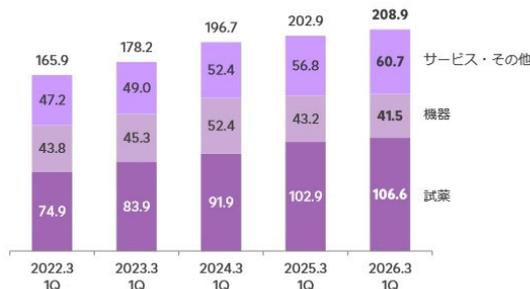
## 米州（地域別）



(Million USD)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>208.9</b>	202.9	<b>102.9%</b>	95.5%
機器	<b>41.5</b>	43.2	<b>96.0%</b>	89.1%
試薬	<b>106.6</b>	102.9	<b>103.6%</b>	96.1%
サービス・その他	<b>60.7</b>	56.8	<b>106.9%</b>	99.2%

中南米向け機器売上が前年好調の影響により減収するも、北米のヘマトロジーおよび尿分野が伸長し、増収を達成

売上高推移 (Million USD)



### ● 機器

- ✓ 中南米における前年好調の影響を受け、減収
- ✓ 販促活動強化を進めた尿分野および直販を開始した米国において血液凝固分野が伸長

### ● 試薬

- ✓ ヘマトロジー・尿・免疫が好調に推移し、増収
- ※ アミロイドβ検査試薬（売上高0.5 million USD + 32%）

11

スライド 11 ページ目、米州地域でございます。

中南米は前年好調であった影響を受けまして減収となりましたけれども、特に北米におけるヘマトロジー分野、それから尿分野、この辺りが伸長し、米州全体では現地通貨ベースで 102.9%と増収になりました。

機器につきましては、中南米での減収の影響を受けましたけれども、特に米国で尿分野や血液凝固分野が好調に推移しています。血液凝固分野の機器設置台数も増加してきておりますので、今後、先日、FDA の承認が取れました新製品である CN シリーズによるさらなる伸長加速を期待しています。

試薬ですけれども、こちらはこれまでの機器設置台数増加に伴い、ヘマトロジー・尿分野、いずれも好調に推移していますし、今後は血液凝固分野の試薬の伸びも期待できます。

アミロイドβ検査試薬につきましては、進展がございましたので後ほど説明いたしますけれども、米国 LabCorp での検査数も順調に推移しています。

2025 年 3 月期末に少し話題になりました納品遅延も徐々に改善してきておりますので、今後は XR シリーズや CN シリーズなどの新製品の効果も含めて期待できるかなと見えています。

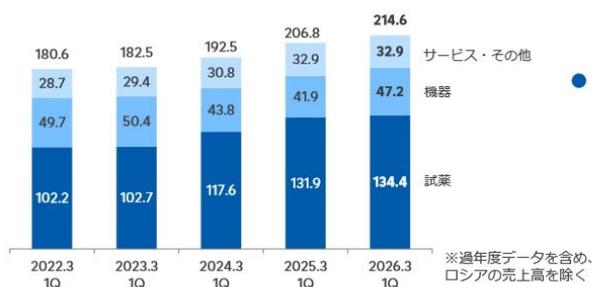
## EMEA（地域別）



(Million EUR)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>214.6</b>	206.8	<b>103.7%</b>	101.2%
機器	<b>47.2</b>	41.9	<b>112.5%</b>	109.8%
試薬	<b>134.4</b>	131.9	<b>101.9%</b>	99.4%
サービス・その他	<b>32.9</b>	32.9	<b>100.0%</b>	97.5%

中東における地政学的影響により、トルコやサウジアラビアなどが減収となるも、主要国が好調に推移し、増収を達成

売上高推移 (Million EUR)



### ● 機器

- ✓ フランスや北欧などでXRシリーズが好調に推移し、増収
- ✓ イタリアも直販切替が順調に進み、ヘマトロジー、尿分野ともに伸長

### ● 試薬

- ✓ トルコ、サウジアラビアで減収も、ドイツやフランスで血液凝固分野が直販効果により伸長、尿分野も地域全体で好調に推移し、増収

スライド 12 ページ目、EMEA 地域になります。

中東における地政学的影響が若干見られておりますけれども、主要国につきましては順調に推移しています。現地通貨ベースでは対前年比 103.7%で、増収となりました。

機器につきましては、XR シリーズによる効果がフランスやなどで順調に出てきており、また昨年までスロースタートだったイタリアも、ビジネスが軌道に乗ってきたという状況でございます。

試薬は、トルコやサウジアラビアで少し減収とはなりましたが、ドイツ、フランスなど、血液凝固分野の直販効果が今出てきていますし、尿分野も全体的に好調だったということです。

EMEA 地域につきましては、今後こういった直販エリアにおける販促強化による伸長や血液凝固分野の拡大などが期待されるところで。

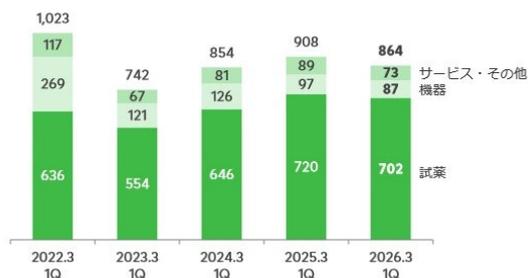
## 中国（地域別）



(Million CNY)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>864.0</b>	908.8	<b>95.1%</b>	<b>88.5%</b>
機器	<b>87.6</b>	97.8	<b>89.5%</b>	<b>83.3%</b>
試薬	<b>702.9</b>	720.9	<b>97.5%</b>	<b>90.7%</b>
サービス・その他	<b>73.3</b>	89.9	<b>81.5%</b>	<b>75.9%</b>

政府主導の医療費抑制政策による厳しい環境下、販売施策の強化などにより、対前年5%減収

売上高推移 (Million CNY)



### ● 機器

- ✓ヘマトロジー分野は、前年同期に販売開始の中下位市場向け機種が好調だった影響により、減収
- ✓尿・血液凝固・免疫分野は、現地生産品が好調に推移し、2桁伸長

### ● 試薬

- ✓ヘマトロジー分野は、初回検査からのCRP\*検査除外などの影響により、減収
- ✓尿・血液凝固・免疫分野は抑制政策の影響があるも、稼働台数増加や項目採用拡大により、伸長

\*CRP検査試薬はヘマトロジー分野に分類

13

スライド 13 ページ目、中国です。

医療費抑制政策による現状と対策については次のページにお示しておりますけれども、第1四半期につきましては対前年比で5%減となりました。

機器につきましては、昨年度、特に中下位市場向けにノックダウン生産を始めた XN-L シリーズが好調だったわけですが、その反動によりヘマトロジー分野が少し減収。ただし一方で、尿・血液凝固・免疫分野、こういった分野の現地生産品の販売は、昨年、現地生産をスタートしたわけですが、それらの販売が好調に推移し、いずれも2桁伸長となっています。

試薬につきましては、医療費抑制策により検査データの施設間共有が進んだり、セット検査の制限によってCRPなど一部影響を受けるということで、ヘマトロジー分野が減収となっています。当社におきましては、CRPがヘマトロジー分野のくくりの中に含まれています。

それからVBPの影響、これは引き続き免疫分野で受けておりますけれども、中国全体における免疫の割合は比較的われわれは少ないということと、先ほど説明させていただきましたように、現地生産機器の設置台数が増加しておったり、試薬項目の採用拡大が進んでおりますので、第1四半期につきましては、免疫分野をはじめ、尿や血液凝固分野でも対前年比では試薬は伸長しています。

ただ、ご存じのとおり、中国は代理店ビジネスに伴う季節変動がどうしてもございますので注視が必要です。

## 参考 | 中国の医療費抑制政策下における現状と対策



### 政府主導による医療費抑制政策

#### ● 検査単価の引き下げ

##### ✓ 集中購買 (VBP)

検査単価が高く、検査数の多い免疫分野項目を中心に試薬の病院納入価格を約50%低減。省を跨いで実施

##### ✓ 検査価格の統一

省ごとに異なる検査価格を全国统一する施策。高い省の価格を下げ、上限価格を統一する方向で進展。現在、免疫分野および糖尿病関連検査が対象

#### ● 検査数の適正化

##### ✓ 検査データの施設間共有

転院時の再検査実施の抑制。2030年末までに全国拡大

##### ✓ セット検査の制限/DRG

ヘマトロジーにおける初回基本検査からのCRP項目の除外など、検査項目の適正化を目的とした保険償還の厳格化。

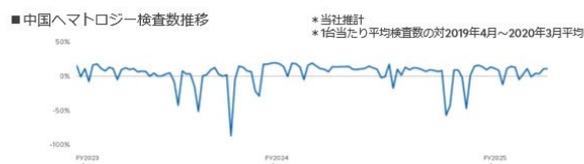
厳しい市場環境が継続

### シスメックスの現状と対策

#### ● 現状

- ✓ 厳しい環境下、セット検査の除外によりCRP検査数は減少も、ヘマトロジー検査数は微減
- ✓ 現地生産品の導入により、尿・血液凝固・免疫分野は増収も予断は許さない状況

上期で売上高△5-10%のリスクを見込む



#### ● 対策

- ✓ ターゲット施設への**直接アプローチ強化**による他社攻略推進
- ✓ 医療機関の収支改善に資する**フルオートメーションシステム製品の提案**を進め、採用施設数の増加
- ✓ **製品ポートフォリオの拡充**

14

皆様、既にご存じのとおり、中国の医療費抑制政策が継続しています。こういった流れはしばらく続くと思いますけれども、こういった検査コストの適正化は過去から各国でも行われておりますので、われわれとしては必要な対策をとりながら、新たな検査の価値を提供するための活動を同時に加速させることが重要だと考えています。

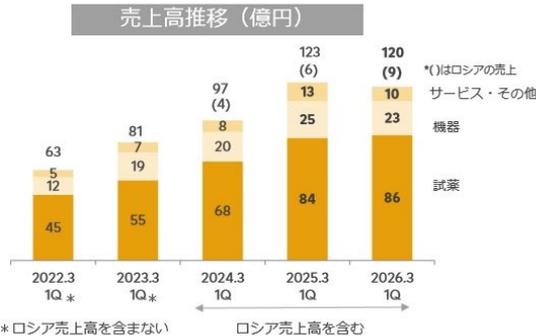
示しているスライドの右側に、われわれのヘマトロジー機器から得られた検査数をグラフでお示しておりますけれども、季節変動、国慶節とか春節とか、いろいろな中国の季節的イベントによってかなり変動してしまいますので、このグラフから必ずしも統計学的有意差があるというまでは言い切れませんが、4月から6月までの検査数平均を見ますと、大きな差は見られないかなと。若干減少しているようにも見えなくはありませんが、あまり大きな差は見られないかなとは思っております。

## AP (地域別)



(億円)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	120.9	123.4	98.0% (103.5%)
ダイアグノスティクス事業	120.4	123.4	97.6%
機器	23.1	25.4	90.7%
試薬	86.6	84.0	103.1%
サービス・その他	10.6	13.8	77.1%
メディカルロボット事業	0.4	-	-

\*(\*)は為替の影響を除いた場合



尿・血液凝固分野の試薬が伸長し、現地通貨ベースでは増収 AP地域内で発生する為替影響などにより、円ベースでは減収

### ダイアグノスティクス事業

#### ● 機器

- ✓ インドで大幅伸長も、インドネシアにおける医療機器への予算抑制の影響などにより、減収

#### ● 試薬

- ✓ 尿・血液凝固分野が好調に推移し、増収
- ✓ ハマトロジー分野は、インドでの前年同期の好調の影響などにより、微減

### メディカルロボット事業

- ✓ シンガポールで100症例以上、マレーシアで80症例以上実施されるなど、手術数は順調に増加

15

スライド 15 ページ目、アジア・パシフィック地域になります。

こちらは、現地通貨ベースでは対前年比 103.5%で、増収になりました。

機器につきましては、インドでハマトロジー分野が 30%増と大幅増収となりましたけれども、インドネシアにおきまして医療機器への予算抑制影響が今期はございましたので、機器全体としては減収となりました。

一方、試薬につきましては、尿や血液凝固分野が順調に推移し、103.1%で、増収となりました。ただし、インドでは、ハマトロジー分野において、前年同期にかなり大型の案件、ベンダー案件がございまして、その好調影響を受け、対前年比という意味では若干弱含みではございましたけれども、市場自体は勢いが継続しておりますので、特に心配はしておりません。

また、メディカルロボット事業は、シンガポール、それからマレーシアでの hinotori の手術数、こちらもお示しのとおり、順調に増加しております。

## 日本（地域別）



(億円)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	110.1	137.1	80.3%
ダイアグノスティクス事業	101.4	125.8	80.7%
機器	15.6	16.8	93.2%
試薬	66.0	86.9	76.0%
サービス・その他	19.7	22.0	89.4%
メディカルロボット事業	8.6	11.3	76.0%

基幹システム切り替えに伴う受注制限の実施により、試薬が大幅に減収となり、減収

### ダイアグノスティクス事業

#### ● 機器

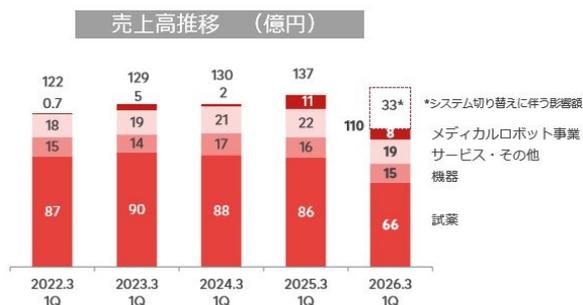
- ✓ 血液凝固分野で大幅に伸長も、ヘマトロジー分野での前年度における好調な機器販売の反動等の影響により、減収

#### ● 試薬

- ✓ 基幹システムの切り替え時に主要分野の受注制限を実施し、減収

### メディカルロボット事業

- ✓ 第1四半期導入台数：1台、累計台数：87台
- ✓ 設置台数および症例数の増加に伴い、サービス・消耗品（鉗子など）の売上は着実に増加



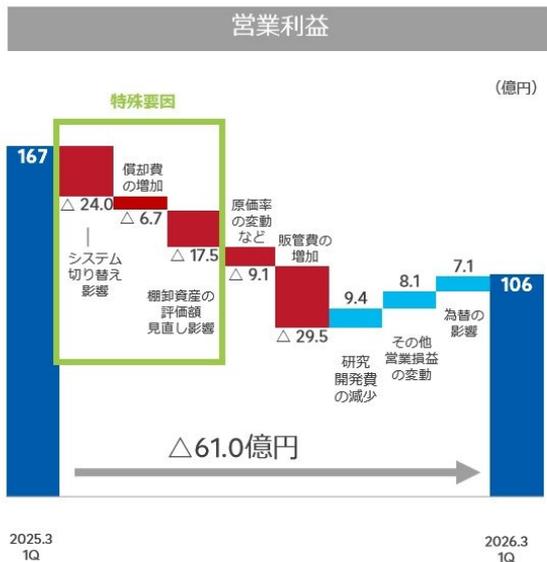
16

スライド 16 ページ目、日本地域になります。

繰り返しになりますが、日本地域におきましては、特に第 1 四半期、基幹システム切り替えによる受注制限を行いました。それから、ヘマトロジー分野の前年度好調の反動などがあり、減収となっております。

この受注制限の影響はもちろん想定はしておったんですけれども、この切り替え後のリカバリーが想定よりも少し弱含みとなった印象でございます。

## 営業利益の増減要因（対前年）



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 特殊要因：△48.2億円
  - ✓ システム切り替えに伴う受注制限による粗利の変動：△24.0億円
  - ✓ 基幹システム稼働に伴う償却費増加：△6.7億円
  - ✓ 連結上の棚卸資産の評価額見直しの影響：△17.5億円
- 原価率変動などによる影響：△9.1億円（0.9pt悪化）
  - ✓ 改善要因：ロジコストの改善 0.4 pt
  - ✓ 悪化要因：サービスコストの悪化 1.0pt
- 販売管理費の増加：△29.5億円
  - ✓ 労務費：直販地域拡大に伴う人員増や単価増：約△15億円
  - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：約△11億円
- 研究開発費の減少：9.4億円
  - ✓ 製品開発への投資継続も、血液凝固分野のプロジェクト完了やライフサイエンス分野のPivotによる研究開発テーマの精査などにより減少
- その他営業損益の変動：8.1億円
- 為替の影響：+7.1億円

17

スライド 17 ページ目、営業利益の増減要因になります。

繰り返しになりますが、システム切り替えの影響、日本のシステム稼働に伴う償却費の増加、それから連結上の棚卸資産の評価見直しということで、先ほどからのご説明のとおり、この特殊要因により 48 億円の対前年比マイナス影響がございました。

原価率は 0.9 ポイント悪化となっておりますが、これは主にサービスコストの悪化が原因でして、売上減少に伴う影響ですので、今後売上伸長に伴って、こちらについては改善すると見えています。

販管費は、直販エリア拡大に伴う人員増や規模拡大に伴う販管費増により 29 億円ほど増加しておりますけれども、こちらはほぼ計画どおり推移しています。

研究開発費につきましては、こちらに記載しておりますけれども、血液凝固分野でのプロジェクト完了やライフサイエンスの PIVOT といったものに伴う費用の再精査により 9.4 億円の減少となっております。ただし、当然ですけれども、イノベーション創出のための費用は今後も継続的・戦略的に使ってまいります。

あと、その他営業損益や為替影響によるプラスを含め 106 億円ということで、最終着地いたしました。

## 3つの成長戦略：既存事業の強化



### ヘマトロジー分野

✓ 進捗

- XRシリーズの米国承認取得（6月下旬）
- EMEAで堅調な成長を継続

✓ 2026年3月期の予定

- 米州でのXRシリーズ販売開始



多項目自動血球分析装置 XRシリーズ

### 血液凝固分野

✓ 進捗

- CNシリーズの米国承認取得（6月初旬）
- EMEA主要国における試薬の好調な伸長
- EMEA、日本、韓国におけるBlood Scienceの導入推進

✓ 2026年3月期の予定

- 米州でのCNシリーズ販売開始



全自動血液凝固測定装置 CNシリーズ

グローバルNo.1のヘマトロジーおよび血液凝固分野で  
世界最大の市場である米国において新製品の展開開始

19

ここからは、三つの成長戦略の進捗について説明いたします。

スライド 19 ページ目、まず、既存事業の強化でございます。

フラグシップモデルXRシリーズとCNシリーズが6月に米国承認取得をいたしました。いよいよ最大市場である米国でこれら新製品の展開が始まりますので、われわれも非常に期待しています。

欧州では先行しておりますが、XRシリーズの設置が順調に進んでおり、CNシリーズの勝率も非常に高いということで、承知しております。

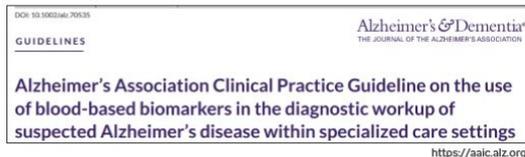
発症前から軽度認知症まで、優位性のあるAβを起点としたバイオマーカーの製品開発を推進

## ApoE

- 国内初のアルツハイマー病治療薬の副作用検査試薬として製造販売承認を取得（2025年6月）

## アミロイドβ (Aβ42/40 ratio)

- 感度、特異度が非常に高く、アルツハイマー病協会国際会議で発表されたスクリーニングガイドラインにおいて、唯一のアミロイドβ試薬として掲載（2025年7月）



## p-tau217, 205

- p-tau217：2026年3月期発売に向けて準備中
- p-tau205：p-tau 217に続き優先度を上げて開発推進  
リファレンス法（質量分析法）と非常に高い相関性を確認  
国際アルツハイマー・パーキンソン病学会にて発表  
（2025年4月）



20

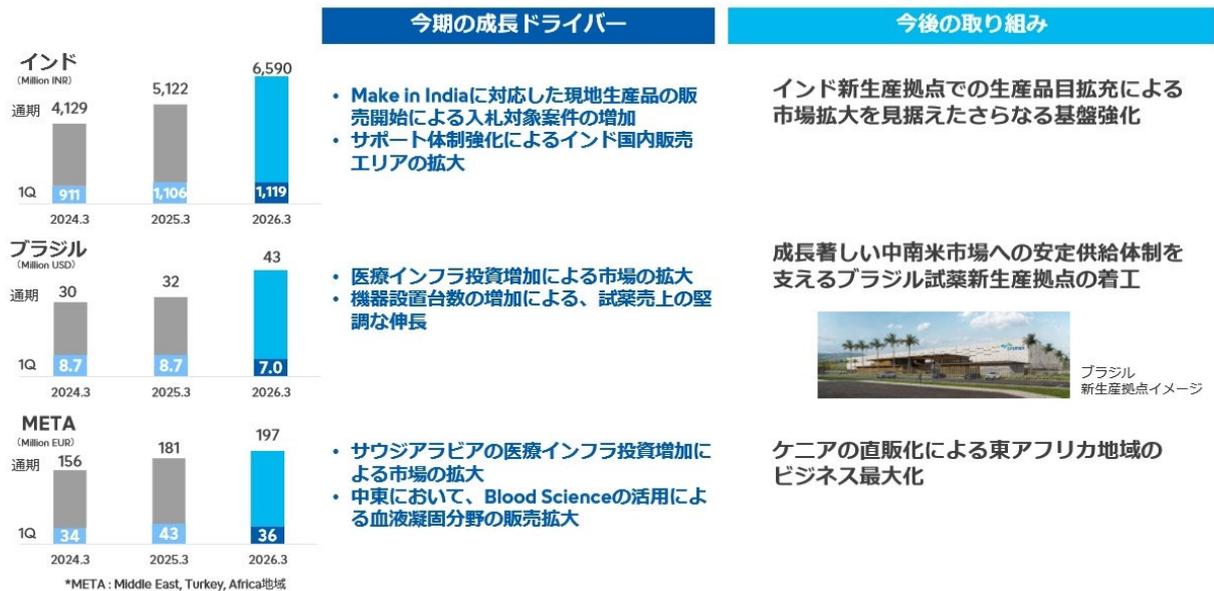
スライド 20 ページ目、アルツハイマー関連の進捗でございます。

アルツハイマー治療薬の副作用検査試薬である ApoE が、ついに国内初の薬事承認をいただきました。現在、保険適用に向けて関連学会と連携し推進しており、なるべく早期の保険収載を目指して活動を推進してまいります。

アミロイドβは、先日の国際学会で発表されたスクリーニングガイドラインにおいて、当社の試薬が唯一のアミロイドβ試薬として掲載されております。アルツハイマー病協会ガイドラインでは、感度が90%以上、それから特異度が75%以上となっておりますが、シスメックスの試薬はいずれもクリアしているということで、唯一掲載されております。

また、p-tau217 と 205 ですが、こちらも現在進捗しておりますけれども、特に p-tau205 がリファレンスと比較して非常に高い相関性が確認されております。先日の国際アルツハイマー・パーキンソン病学会でも発表されております。

### 3つの成長戦略：新興国戦略



ブラジル新生産拠点イメージ

スライド 21 ページ目、新興国戦略になります。

インドは無事、新工場が稼働しており、Make in India の製品による入札案件が今、増加し始めておりますし、さらにサポート体制強化を推進して販売エリアを拡大中ということで、順調でございます。

ブラジルは政府主導の医療インフラ投資も獲得しておりまして、新工場の建設も無事着工し、今後の成長著しい需要をきっちり獲得していくということで、戦略を進展させています。

META 地域は、どうしても地政学リスクは一部ありますけれども、やはり中長期的な医療インフラ投資増加が見込まれますし、それに合わせるために、われわれはさらなる直販エリアの拡大を進めています。先日、アフリカにおいてもケニアの直販化を実施し、特に東アフリカ地域、こういった地域のさらなる拡大を狙って進めてまいります。

## 3つの成長戦略：新規事業の拡大 メディカルロボット事業



着実な事業の進捗により、さらなる成長フェーズへ

2024年4月  
呼吸器外科領域への適応承認取得

2024年9月  
マレーシアにて薬事認可取得

2025年3月  
欧州医療機器規則に基づく「CEマーク」  
認証取得に向けた申請を実施

2025年6月  
欧州と日本間では世界初の遠隔手術  
の実証実験に成功



✓ 国内のロボット支援下手術における症例数の約9割以上カバーし、着実に導入台数・症例数を伸長

✓ メディカロイドは2026年3月期に単年度黒字化を計画

22

スライド 22 ページ目、メディカルロボット事業です。

今期は、さらなる成長フェーズに向けたまさに転換点かなと思っています。当然ですけれども、日本にとどまらず、既に展開しておりますアジア、それから新しい市場になりますが、欧州、こういったところの海外展開を加速させたいと考えております。

遠隔手術の実証実験も進めておりまして、去年はシンガポールと日本で実施しましたけれども、今年は6月に、示しておりますとおり、フランスと日本で遠隔手術の実証実験を実施し、無事成功しています。

今期は100台を達成し、症例数も1万症を超えてまいります。消耗品やサービスサポートの構成比も増える中で、収益改善も果たしていけるかなと思っています。

なお、メディカロイド単体の単年度黒字も実現したいと考えています。

## 3つの成長戦略：新規事業の拡大 再生細胞医療など



### 再生細胞医療

#### ● 既存技術を活用し、より安全かつ質の高い再生細胞医療の提供へ貢献

- ✓ 当社の検査技術を再生細胞医療の品質管理試験に応用。メガカリオン社のiPS細胞由来血小板製剤の品質管理にも実装予定
- ✓ Gaudi Clinicalと提携し、医療機関向け細胞製造サービスを展開。当社検査で安全・高品質な治療に貢献



### デジタルソリューション

#### ● AI×医療データで、慢性疾患・がんの予防支援を加速（日本生命との協業に合意）

- ✓ 両社で慢性疾患やがんなどの疾患リスク評価モデル開発のフェジビリティスタディを実施し、良好な結果を取得
- ✓ 疾患リスク評価モデルなどの開発に向け、複数の具体的な研究テーマを設定し、取り組みを共同で推進

23

スライド 23 ページ目、最後に、再生細胞医療分野など、新規事業の進捗です。

再生細胞医療はご案内のとおり、大きく品質管理、工程の自動化、それから再生医療製剤の三つの柱で進めていますけれども、いずれも着実に進展しています。特に品質管理におきましては、当社の既存技術や製品、少し写真を掲載しておりますけれども、従来 IVD で使っていた製品なども活用いただいております。研究機関などで非常に高いご評価をいただいております。

デジタルソリューションにつきましては、日本生命社との協業を 6 月に発表させていただきましたけれども、両社で慢性疾患や、がんなどの疾患リスク評価モデルの開発、こちらはフェジビリティスタディを実施し、良好な結果が得られています。

今後、疾患リスク評価モデルの開発推進を進めてまいりますので、どこかのタイミングで皆様方にも詳細をご説明できるかなと思っております。

売上原価影響 年間約30-40億円の想定内に収まる見込み

### 期初前提

- 相互関税 追加関税率10%  
対象：主に米国向け機器製品
- 鉄鋼・アルミ製品への追加関税25%  
対象：主にアルミ・鉄鋼を含む日本産パーツなど
- 各国の報復関税影響

### 変更後前提 \*8月1日以降

- 相互関税 追加関税率**15%**  
対象：主に米国向け機器製品
- 鉄鋼・アルミ製品への追加関税**50%**  
対象：主にアルミ・鉄鋼を含む日本産パーツなど
- 各国の報復関税影響

**1Q影響は軽微**  
在庫積み増しやサプライチェーンの見直しに加え、製造方法の見直しや価格転嫁などの対策推進により  
関税増加分を考慮しても通期で期初想定内に収まる見込み

25

スライド 25 ページ目、最後に、業績予想となります。

まず米国の相互関税でございますが、当初見込んでおりました、年間約 30 億円から 40 億円という想定内に収まる見込みということでございます。実際に 1Q の影響は本当にわずかでございます。既に対策として実行してまいりました在庫の積み増しやサプライチェーンの見直しに加えて、製造方法の見直しなども進めています。さらには価格転嫁も合わせて、当初の予定 30 億円から 40 億円に収まると見ております。

## 2026年3月期 業績予想



上期：日本のシステム切り替え影響からの回復遅れ、中国の減収リスク、第1四半期に計上した海外の棚卸資産見直しの影響を織り込み計画修正

通期：進展中のダイアグノスティクス事業の新たな成長要素の具現化に加え、更なる取組みにより計画達成見込み

(億円)	期初予想 2026年3月期 上期 (4月-9月)		修正予想 2026年3月期 上期 (4月-9月)			*修正なし 2026年3月期 通期 (4月-3月)		
	構成比		構成比	対期初予想	構成比		対前年	
売上高	2,525	100.0%	<b>2,400</b>	100.0%	△125	<b>5,350</b>	100.0%	105.2%
営業利益	445	17.6%	<b>360</b>	15.0%	△85	<b>915</b>	17.1%	104.5%

● 想定為替レート  
\*変更なし

	通期 (2025年5月公表)
1 USD	142.0円
1 EUR	160.0円
1 CNY	19.5円

● 為替感応度の概算値  
\*変更なし

	売上 (年間)	営業利益 (年間)
USD	8.1億円	1.1億円
EUR	6.0億円	0.5億円
CNY*	5.8億円	4.3億円

\*0.1円変動時

26

スライド 26 ページ目、2026 年 3 月期の業績予想になります。

冒頭、浅野からの説明にもございましたけれども、日本の回復遅れや中国の減少リスク、こういったものを上期に見込み、修正させていただきまして、売上高につきましては 125 億円減の 2,400 億円、営業利益につきましては 85 億円減の 360 億円ということで、修正をしたいと考えています。

ただし、通期に関しましては、現時点ではリカバリーすべく、さまざまな策を打っておりますので、例えば米州においては新製品の下期の業績貢献による加速、中国につきましてはポートフォリオの追加や販売強化策、このような手を打って、対前年同程度を維持したいと考えております。日本につきましては、同様に製品ポートフォリオの追加、それから先日のガイダンスでもご説明しております、新たな成長要素もございますので、こういったものを確実に実行に移して、通期の当初計画を目指してまいります。

以上でご説明を終了させていただきます。

以上